

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成事業
研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名 富山短期大学 幼児教育学科
- ・所属ゼミ 児童家庭福祉ゼミ
- ・指導教員 明柴聡史
- ・代表学生 太田優菜
- ・参加学生 庭田萌花 南心愛 太田優菜

【研究題目】

1. 課題解決策の要約

現在、保育者不足や不適切保育、保育士の離職率が高いという課題に直面している。そこで、保育者の働き方や魅力について研究し、本研究では、保育現場の声だけではなく、第3者から映る保育者の働き方や魅力に焦点を当てた。研究方法は、アンケート項目を作成するための参考にインターネット調査、保育施設を利用している(していた)富山県内の保護者と潜在保育者等と学生を対象にアンケート調査、石川県と大阪府と富山県の保育者にインタビュー調査を行った。今後は、保育者同士・保育者と管理職が話しやすい関係・環境づくりをすることが必要であると考え。

2. 調査研究の目的

近年、保育者不足や不適切保育、保育士の離職率の高さが問題視されている。これらの背景には、潜在保育者が多いことや時間的・精神的余裕がないこと、早期退職者が多いこと等が挙げられる。そこで、筆者らは保育者になる立場として、保育者の働き方や魅力について研究し、保育者がより働きやすい環境を理解する必要があると感じた。

そこで現役保育者、保育施設の関係者、保護者、潜在保育者ならびに退職経験のある保育者(以下、潜在保育者等とする)、保育士養成校に通う学生を対象に実際の声聴き、保育現場に就職するまでに理解を深めたいと考え、この研究テーマを選定した。アンケート調査は上記の4者を対象に行ったが、保育現場の声だけではなく、第3者から映る保育者の働き方や魅力について研究した文献はあまり多くない。この報告書では保育者以外の3者の結果をまとめた。

3. 調査研究の内容

○インターネット調査

ソラジョブ(2023)「保護者に求められる保育士とは?アンケートから見える保育士の役割や資質」によると、「どんな保育士に子どもを預けたいか」という質問に対して、「安心して預けることができる」と回答した割合が約90%で最も高いことが分かった。また、保育士に対して不満を抱えている保護者は少ないということが分かった。不満を抱いている保護者の回答の中では、保育士と保護者の関係性に関する不満が最も多かった。

本研究では、ソラジョブ(2023)が公開しているアンケート調査を比較対象とするため、質問項目を参考にアンケート調査項目を作成した。

○アンケート調査

実際に保育施設を利用している(していた)富山県内の保護者と潜在保育者等と学生を対象に以下の項目でアンケート調査を実施した。

1. 乳幼児を対象とした子育て支援イベントに参加していた保護者

【調査内容】自記選択式及び自由記述

- ① 子どもが通っている保育施設の種別はどこか
- ② 保育者同士(職員)の雰囲気は良いと感じるか、その理由(記述)
- ③ 利用している保育施設に満足しているか、④ 利用している保育者に満足しているか
- ⑤ 保育施設や保育者に対して意見や不満があるか、⑥ 子どもに経験してほしい保育施設の行事は何か

2. 潜在保育者等

【調査内容】選択式

- ① 属性:性別、年代
- ② 現在の就業状況
- ③ 保育士を退職した理由は何か
- ④ 保育職への復職希望はあるか

3. 保育士養成校の学生

【調査内容】自記選択式及び自由記述

- ① 実習保育施設の保育者同士(職員)の雰囲気は良いと感じたか
- ② 実習保育施設に満足しているか
- ③ 実習保育施設の保育者に満足しているか
- ④ 実習保育施設や保育者に対して意見や不満があるか
- ⑤ 実習保育施設に就職したいと思ったか
- ⑥ 保育士として、子どもに経験してほしい保育施設の行事は何か

○インタビュー調査

- 1.石川県(T園:保育経験年数2年目、4年目)
- 2.大阪府(S園:保育経験年数1年目2名/K園:保育経験年数1年目2名)
- 3.富山県(S園:保育経験年数1年目/A園:保育経験年数1年目)

4. 調査研究の成果

○アンケート調査

1. 保護者を対象としたアンケート調査

保護者にアンケート調査を行った結果、66名からの回答が得られた。

“保育者同士(職員)の雰囲気は良いと感じるか”という質問に対する結果が上の図である。図1より「大変良い」と回答したのが全体の29%、「良い」と回答したのが48%であり、反対に「あまり良くない」と回答したのが5%、「良くない」と回答した人はいなかった。このことから、8割近い保護者が保育者の雰囲気を良いと感じていることが分かった。「大変良い」「良い」と回答した理由には「保育者同士が笑顔でコミュニケーションをとっている姿が見られる」「楽しそうに保育しており、子どもたち一人一人を見てくれていると感じる」という意見があった。その一方で「あまり良くない」と回答した理由には「管理職の関係が良くない」「保育者同士の情報共有がされていない」「挨拶や笑顔が少ない」という意見があった。

次に“保育者とのコミュニケーションに満足しているか?”という質問に対する結果が上の図である。図2より「満足である」と回答したのが全体の52%、「やや満足である」と回答したのが29%で、8割近い保護者が満足している。

その一方で“保育施設や保育者に対してどのような不満があるか”という質問に対しては、「特にない」に次いで「保育者とのコミュニケーションが少ない」という意見が多かった。

この結果から、保育者同士や保育者・保護者間でコミュニケーションを多くとれていることが雰囲気の良さや保護者との信頼関係に繋がるということが考えられる。また雰囲気が良くないと感じている理由に「保育者同士の情報共有がされていない」という意見があること、保育施設や保育者に対する不満に「保育者とのコミュニケーションが少ない」という意見があることから、保育者同士での情報共有が不十分である保育施設は、子どもの情報に偏りがあり、適切に保護者に情報がいき渡っていないのではないかと考えられる。

2. 潜在保育者等を対象としたアンケート調査

潜在保育者等にアンケート調査を行った結果、23名からの回答が得られた。その中で20代が多く、全体の65%を占めていた。残りは30代が13%、40代が17%、60代が4%であった。

“保育職への復職希望はあるか”という質問に対する結果が図3である。「ある」と回答した人は全体の35%であり、「ない」と回答した人が17%であった。復職希望のない人が17%もいたことは残念な結果であり、その理由を聞く必要があると考える。

“保育職を退職した理由は何か”という質問に対する結果が図4である。退職理由には「仕事量が多い」「労働時間が長い」という意見が最も多くあった。次いで「職場の人間関係」「給料が安い」という意見が多く挙げられていた。さらに、「結婚」「転居」等、生活の変わり目が退職理由へと繋がっていることが明らかとなった。

この結果から、潜在保育者等は、保育施設での人間関係における雰囲気が良くないことや、働き始めてからの理想と現実とのギャップを感じているのではないかと考えられる。その一方で、結婚や妊娠・出産、転居等、家庭や生活の事情で退職した保育者もいることや、保育職への復職希望を

問う質問に「ある」「どちらともいえない」と回答する人が半数以上を占めていることから、働く環境や“人間関係の良好さを可視化”することや“自分に合った保育施設を見つける機会を提供”することで保育職へ復帰したいと思える人が増えるのではないかと考えられる。

3. 学生を対象としたアンケート調査

学生にアンケート調査を行った結果、76名(回答率90.4%)からの回答が得られた。

“今回の実習保育施設の保育者同士(職員)の雰囲気は良いと感じたか”という質問に対する結果が図5である。「大変良い」と回答したのが全体の45%、「良い」と回答したのが42%であり、反対に「あまり良くない」と回答したのが7%、「悪い」と回答したのが1%であった。「大変良い」「良い」と回答した理由には「保育者同士の連携ができていた」「休憩時間にプライベートの話をしていた」という意見があった。その一方で、「あまり良くない」「悪い」と回答した8%の回答の理由には「保育者と管理職の関係が良くなかった」という意見が複数あった。

“今回の実習施設に就職したいと思ったか”という質問に対する結果が図6である。図6より「就職したいと思った」と回答したのが全体の56%であり、反対に「就職したいと思わなかった」と回答したのが20%であった。「就職したいと思った」と回答した理由には「保育者同士の雰囲気が良かった」という意見が多くあった。その一方で「就職したいと思わなかった」と回答した理由には「子どもへの対応が悪かった」「保育者が忙しそうだった」「保育者同士の雰囲気が悪いように感じた」という意見があった。

この結果から、学生が良い雰囲気だと感じるのは、保育者同士の連携がとれていたり、休憩時間にプライベートの話をしていたりする保育施設だと考えられる。また、学生は保育者同士の雰囲気の良い保育施設に就職したいと感じるのだと考えられる。その一方で「就職したいと思わなかった」と回答した理由の中に、「保育者と管理職の関係が良くなかった」という意見があったが、コミュニケーションをとる時間が少ないからではないかと考えられる。ただ、保護者の意見からも「管理職の関係」があったことから課題であるといえる。以上のことから、保育者同士の話し合いの時間を多くつくり和気あいあいとしたコミュニケーションと保育について対話をすることが大切だと考えられる。

○インタビュー調査

【内容】

- ①何歳児担当か
- ②職場環境や労働条件に戸惑いや難しさを感じているかとそれほどのようなことか
- ③休憩時間はどのように過ごしているか
- ④1日の勤務の中でノンコンタクトタイムはあるか
- ⑤学生時代にもっと勉強しておけばよかったことはなにか
- ⑥仕事を辞めたくなくなったことはあるか
- ⑦どうして続けられたか

1.石川県の若手保育者インタビュー調査結果

表 1 石川県内保育施設 T 園:保育経験年数 2 年目 a、4 年目 b

	T園2年目a	T園4年目b
①	3.4.5歳児担任	2歳児担任
②	感じていない	求人票との違いがないため感じていない
③	保育以外の仕事や職員との会話(食事30分+休憩30分=計60分)	保育者とプライベートな話
④	60分	60分
⑤	絵本の知識(季節に合ったもの)	絵本、触れ合い遊び、わらべ歌、ピアノ
⑥	ない	同期が退職した時
⑦		先輩方のフォロー

2.大阪府の若手保育者インタビュー調査結果

表 2 大阪府内保育施設 S 園:保育経験年数 1 年目 c、d

	S園1年目c	S園1年目d
①	1.2歳児	2.3.4.5.歳児
②	先輩方が分からないことを教えてくださったり、叱ってくださったりするため感じていない	感じていない
③	書類作成、寝る等しっかり休憩	おやつを食べる、携帯を見る、寝る
④	ノンコンタクトタイム時に事務作業	午睡の時に順にノンコンタクトタイム
⑤	感染症などの知識を持っておくと子どもの様子を見て病気の可能性に繋げることができる	指導案の書き方、エピソード記録、障害児保育
⑥	ない	ない
⑦		

表 3 大阪府内保育施設 K 園:保育経験年数 1 年目 e、f

	K園1年目e	K園1年目f
①	1歳児	0歳児
②	感じていない	感じていない
③	自分の時間に使っている	リフレッシュしている
④	日によって違うが、約30分	午睡の時間
⑤	歌の知識とピアノの技術が足りない	連絡帳の練習をする機会がない
⑥	ない	ない
⑦		

3.富山県の若手保育者インタビュー調査結果

表 4 富山県内保育施設 S 園:保育経験年数 1 年目 g、A 園:保育経験年数 1 年目 h

	S園1年目g	A園1年目h
①	4歳児担任	1歳児担任
②	感じていない	感じていない
③	連絡帳の記入	連絡帳の記入
④	休憩兼ノンコンタクトタイム	15分ご飯+45分くらい休憩
⑤	実習とは別にいろいろな園に行っているいろいろな園を見る	子育ての経験がないからアドバイスできない
⑥	ある	ある
⑦	4歳児担任だからあと1年見れるし、引っ越すとお金がかかる	子どもの成長に感動、卒園まで見守りたい

5. 調査研究に基づく提言

今回の調査研究から、雰囲気の良いと感じる保育施設や保育者の特徴として、保育者同士や保育者・保護者間でコミュニケーションがとれていること、保育者が子どもや保護者に対して明るく笑顔で接しており、信頼関係が築けていること等が挙げられる。これらのような雰囲気の良い保育施設や保育者は、保護者にとって子どもを預けたいと思える場、学生にとって働きたいと思える場、保育者にとって働きやすい場であると考えられる。

雰囲気の良い保育施設では休憩時間にプライベートの話をしていたり、積極的な話し合いの場が設けられていたりすることが分かった。反対に雰囲気の良い保育施設では保育者と管理職の関係が良くなかったり、忙しく話し合う時間が少なかったりすることが分かった。このことから、保育者同士で情報共有や意見の交換を行える場を設け、積極的に話し合いを行うことが、雰囲気の良い職場づくりに繋がると考える。

6. 課題解決策の自己評価

本研究を通して、第3者から映る保育者の働き方や魅力について知ることができた。

保護者の8割近くが保育者同士の雰囲気が良いと感じていることや、保育者とのコミュニケーションに満足していることから、保育者・保護者間の関係が良好な保育施設が多いと考えられる。その一方で、「管理職の関係が良くない」「保育者同士の情報共有がされていない」という意見もあり、保育者同士の連携が今後の課題として挙げられるのではないかと感じた。

潜在保育士ならびに退職経験のある保育士の退職理由に、「仕事量が多い」「労働時間が長い」「職場の人間関係」が多く挙げられていたことから、働く環境や保育施設の雰囲気の良さを重視していると考えられる。また潜在保育士ならびに退職経験のある保育士は、20代の割合が最も高く、養成校の実習や講義で学んだことや想像とのギャップを感じているのではないかと考えられる。このことから、今後保育者となる学生が、就職したいと思える雰囲気の良い保育施設を見つけることが、離職率の低下に繋がると考えられる。

3者の視点を通して、今後の保育現場の課題は、保育者同士・保育者と管理職が話しやすい関係・環境づくりをすることであると考えられる。

具体的な取り組みとして、同世代の保育者でグループを組んで保育を行ったり、保育者同士(職員)で良い所見つけを行って可視化したりすることが挙げられる。

今後は保育者に行ったアンケート調査の結果を分析し、保育現場で働く保育者の目線から映る保育者の働き方や魅力について知り、学びをより深めたいと考える。

引用参考文献

ソラジョブ保育士「保護者に求められる保育士とは？アンケートから見える保育士の役割と資質」(<https://solasto-career.com/hoiku/media/16769/>),2024.12.10 アクセス